

☆第35回日芸協中部ハーモニカコンサート

7月17日(水)に名古屋駅前の「ウインクあいち」で開催されました。出演者は独奏13人、三重奏1組、四重奏2組でした。独奏では複音ハーモニカの他にクロマチックハーモニカ、テンホールズハーモニカの演奏もありバラエティーに富んだプログラムになりました。また、今年度の師範合格者の樋口美穂さん、津田貴三子さん、準師範合格者の柴山真由美さん、高柳ひろみさんの演奏があり、会場の皆さんが拍手で受賞をお祝いしました。アンサンブルではトリオ99の三重奏による「荒城の月」は新しい編曲で、新鮮な感じの「荒城の月」を楽しく聴かせてくれました。第3部では、今回のゲスト「八連符+」の出演でした。女性7人によるバリトンハーモニカ、ホルンハーモニカも交えた心地よい音色と歯切れの良い演奏で「秋桜」、「組曲“宇宙戦艦ヤマト”より」、「アメリカンパトロール」など7曲はいずれも初めて聴くような曲で、熱演に会場の雰囲気盛り上がりしました。アンコール曲はNHK朝ドラにちなんだ「東京ブギウギ」の演奏で終演しました。猛暑の続く時期での開催でしたがとても楽しいコンサートでした。



(ゲストの「八連符+」)

☆第29回アンデパンダン発表会

来年1月13日(月、祝)12時30分より名古屋市名東文化小劇場で開催されます。昨年度は2月開催でしたが、2月に「演懐コンクール」(下欄に記載)が開催されるため1ヵ月早い開催となります。ゲストは第1回複音ハーモニカコンクールシニアの部第1位の加藤精吾さん(当会名誉会長、日本ハーモニカ芸術協会理事長)です。本演奏会はハーモニカ初心者に舞台演奏の楽しさと練習の達成感を体感してもらい、且つ舞台度胸をつけてもらう趣旨で始められたものです。懸命にハーモニカ演奏に挑戦する出演者の熱意が伝わってくる演奏会です。いつか、どこかで聞いたことのある懐かしい曲が演奏されますのでハーモニカの経験がないご家族やお近くの方を誘ってお出かけください。

☆第4回演懐コンクール

来年2月15日(土)全日本ハーモニカ連盟主催による本選ライブが開催されます。「演懐」は「えんかい」と読み、選曲が歌謡曲・演歌・艶歌・流行歌・懐メロに限定されたユニークなコンクールです。競技カテゴリーは ①無伴奏ソロ ②伴奏付ソロ ③複音ハーモニカ小アンサンブル ④クロマチック・その他のハーモニカ小アンサンブル の4部門あり、予選審査を勝ち抜いた決勝進出者が一同に会し、技を競い合います。また、決勝ライブ終了後には、審査員によるスーパーライブも用意されています。

- 1 日時 2月15日(土)10時半開場、11時開演
- 2 場所 ウインクあいち(名古屋駅より徒歩5分)
- 3 申込み方法 「チケット・DVD申込書」をFAX
又はEmail
チケット：2千円/枚 DVD：4千円/セット
- 4 問合せ先 日芸協中部事務局 伊藤
(052-837-6234 / ito.starcats@yahoo.ne.jp)

☆Various 研修会(多講座同日開催)

8月31日の開催予定でしたが台風10号の影響で中止となり、急いで会場を探し10月12日(土)に当初計画を縮小してミニ研修会を大府市の愛三文化会館で開催しました。地域の行事等が多い時期での急遽開催のため受講者が集まらないのではと危惧しましたが、約50人が受講しました。昨年のようなホールにおける合奏やミニコンサートは無くし、当初の申し込みが多かった講座を中心に午前・午後4講座から2講座の選択としました。講師がきめ細かく受講者に対応されていた事が好評でした。昼食後は初めての試みで自由参加の「さぐり吹き大会」を催し、童謡や歌謡曲を西尾先生の伴奏で19曲を楽譜無しで全員が吹き盛り上がりしました。また、「飛び入り演奏会」では「コンドルは飛んで行く」を先頭にミニ演奏会式で6人が順次独奏し、楽しい演奏会となりました。各講座では、受講者の皆さんが指導に真剣に耳を傾け、進んで質問するなどして熱心に受講されていました。



(飛び入り演奏会)

☆ハーモニカ教室の運営状況

当会の指導者会に属する方が運営していますハーモニカ教室の運営状況を3年に1度調査しております。現在109教室、722人が受講されています。(重複受講を含む)先回の調査に比べ、5教室増加し、受講者は38人減少しています。コロナの影響などで一時教室数は減少しましたが、増加に転じているようです。パソコンの検索サイトで「日芸協中部」と入力していただければ、当会のホームページが閲覧できます。その中でハーモニカ教室一覧表も閲覧できますので、活用してください。(事務局)

☆第19回なごやハーモニカ演奏会

10月5日(土)中村文化小劇場で開催されました。10月と思えない残暑の中 出演者、お客様、スタッフの皆さんが、それぞれいろんな汗をかきました。独奏(22人)、二重奏(1組)、三重奏(1組)、四重奏(1組)、五重奏(1組)合奏(4組)。今回は諸事情により大合奏の出演はありませんでした。今回初めてマイクの上部が自由に動くフレキシブルマイクを使用しました。大変使い易く、スタッフの不足対策に効果大と分かりました。第一部の最後に特別出演!岡崎から松山三兄弟の出演がありました。松山師範のお孫さんで、小2の独奏、続いて中3、高2の二重奏で、複音、クロマチック、バス等を吹き分け、会場を盛り上げました。第二部の最後はパライーズ。「故郷の人々」「月の砂漠」の新作二曲、アンコールに「郷愁」の演奏で幕が下りました。(寄稿:入山佳江さん)



☆第13回ふれあいコンサート

夏もようやく終わり、朝夕に秋の気配を感じるようになった10月20日(日)、多治見市のヤマカまなびパークにて開催されました。合奏4組、四重奏2組、二重奏2組、独奏15人。出演者28人、延べ48人の演奏となりました。今年は「高蔵寺中日文化センター」の皆さんが初出演でした。ドキドキしながらも精一杯の演奏の披露でした。最後に「ウィンドハーモニーIN多治見」の演奏に合わせ、客席の皆さんと一体になって「今日の日はさようなら」を歌いました。(寄稿:西尾庸子さん)



☆第2回三重ハーモニカ街道演奏会

この演奏会は、「三重県のハーモニカ界に活気を!」と三重県指導者会が中心となって、昨年に第1回演奏会が開催されました。今年の第2回開催は地域を広げ、会場も大きくし、他のグループに広く参加を募り、10月19日(土)鈴鹿市ふれあいホールで開催されました。小雨が降っていましたが、10月中旬にしては暖かい日で、鈴鹿市近辺からのご家族連れ、古くからのハーモニカファンで賑わいました。合奏8組、二重奏6組、三重奏1組、独奏16人の全42曲。出演者は延べ70人、来場者は約150人でした。童謡・歌謡曲・クラシック・ポップスなどバラエティに富んだプログラムになりました。大澤会長、戸田理事長がご来場下さり大感激です。いつもより上手に吹けたかも知れませんね。これからも、会員増にも結びつく様な楽しい演奏会にしていきたいと思えます。



(寄稿:松岡啓子さん)

☆「岡崎市民音楽祭フェスティバル2024」にコーキンズが出演

岡崎市シビックセンター・コロネットで9月14~18日、ピアノ演奏、バイオリンとピアノのデュオ、ハーモニカ演奏等のコンサートが開催されました。

コーキンズは18日(水)に出演しました。残暑厳しい日でしたが、200人もの来場者があり、「郷愁」などの合奏12曲に独奏、二重奏を含め16曲を演奏しました。アンコール曲の「オクラホマ・ミキサー」では、教室の皆さん16人ほどが立ち上がり、フォークダンスを踊ってくださり、大いに盛り上がりました。(寄稿:野々目邦弘さん)



◇ グレード認定等のお知らせ ◇

2024年10月 中部支部関係分

【初級】★ドルチェ=小松豊子 ★ハーモニー=野田美子 ★小牧ハーモニカ=福田米作 ★ハモニカ=宮=玉田真人、高木茂雄、薦田多美子、宮田京子、服部美智子 ★さくらハモ=牧野敏信 ★武豊サークル=堀田美保 ★愛西ハモクラブ=桑村君江 ★アマービレ=山内葉子

【中級】★K・ドレミ=酒井牧子 ★岡崎りぶら=熊谷明博 ★高蔵寺中日CC=中村清信、野村あおい、桑名美保 ★はもにかベル=龍溪和子

【上級】★ドルチェ=高野正義 ★鳴海中日CC=中村恵美 ★ハーモニカみわ=永田崇家 ★中瀬教室=寺嶋保 ★楽々ハーモニー=小林貞夫、齋藤壽彦、稲垣美代子 ★さくらハモ=左高テル ★アマービレ=鹿島啓子、渡辺弘三 ★七郷ハモクラブ=松久志伸 ★はもにか福井勝山=前川幸江、三屋智子

【研究科】★ハーモニカ花音=奥野民憲 ★岩田パーソナル=三島幸子

☆大澤会長の佐藤秀郎賞 受賞記念コンサート

9月21日(土)安城市アンフォーレで開催されました。大澤龍己さんは当会の会長として中部地域のハーモニカの普及、発展を推進され、また多くの教室での指導活動、「パライーズ」、「トリオ99」、「アガル」のリーダーとして演奏活動をされており、その幅広い活動実績を評価されての受賞でした。日芸協中部の先生方をはじめ各教室の生徒の皆さんでお祝いしようと、このコンサートの開催が企画されました。

ピアノとの共演、箏との二重奏、複音ハーモニカとクロマチックの独奏、複音ハーモニカ三重奏(トリオ99)、複音ハーモニカとピネタハーモニカ二重奏(アガル)。いろいろな演奏形態で21曲の演奏をされました。ピアノとハーモニカの共演は心地よい演奏でした。箏とハーモニカで演奏された「青葉の笛幻想曲」は箏とハーモニカの音色がとてもマッチして新鮮な演奏となりました。複音とクロマチックの二刀流での独奏もあり中身の濃い、バラエティーに富んだコンサートで満席の聴衆がハーモニカの音色を堪能できました。(寄稿:野々目邦弘さん)

